

平成30年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
1 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 個別の教育支援計画の活用を見直しを通して、より効果的なキャリア教育・進路指導の充実を図る。	キャリア支援課 進路指導	保護者からの学校評価アンケートに「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	学校評価アンケートの評価項目「個別の教育支援計画」において、「よくあてはまる」44%「ややあてはまる」51%で合わせた割合が95%であった。	昨年度の学校評価中間アンケート、評価項目「個別の教育支援計画」において、「子どもの能力を伸ばすための支援計画となっている」に対して、厳しい評価の保護者が複数存在していた。以後、教育課程の見直しや保護者との連携を密に支援計画を作成し、具体的な取組みを進めてきた結果、保護者の満足度も向上してきた。今後は「よくあてはまる」の割合がより多くなるように、継続していきたい。	A

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
2 地域との繋がり	① 地域と関わる交流活動を推進しホームページ等で広報活動を行う。	総務課	地域と関わる交流活動の実施回数が学校全体で A：20回以上 B：16～19回 C：11～15回 D：10回以下	小学部と中学部で地域の公民館との交流や居住地校交流、漁業施設での学習を通して地域との交流活動を9回行った。 高等部では地域での販売活動を3回、また運動会や分校祭等2回行い学校全体で14回行うことができた。	10月まで地域と交流した活動が14回で中間での評価はCであった。 11月以降、地域協同避難所体験の実施や、公民館との交流をさらに進め、年間の評価がB以上を目指したい。	C
	② 地域の特別支援学級の担任等に対して、授業公開や教材教具などを紹介したり、研修会を開催したりしてそのニーズに応じた支援を行う。	キャリア支援課 自立支援	真似たり参考にしたりして何らかの実践を行った教員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	アンケートの結果7名の返信があった。全員が参加した内容が「とても役に立った」と回答した。参考に実際に取り組んだ割合が86%だった。	6月と9月に合同学習会、8月に合同研修会を開催した。地域の特別支援学校の担任等の参加は少なく延べ11名であった。今後は、3学期に県の研修センターから指導主事を講師に招き研修会を企画し、案内する。参加された方にアンケートし再集計する。	

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
3 授業力の向上	① 学部を超えて授業を参観し、参観者によるコメントをもとに小・中・高が連携した授業改善に取り組む。 (年3回以上)	教務課	他学部の授業や参観者のアドバイスが役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	授業を参観して役に立つと考える教員の割合が、100%であった。	・役に立つと考える教員は多いが、互見期間に特別時間割が重なると空き時間がなく見ることができないなどの意見も多く寄せられた。小学部や中学部は生徒が早く帰る日に一斉に見にいくとか、交替で見に行くなど、見たい授業を見られるような方策が必要である。	A

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
4 安心・安全な学校づくりの	① 重複生徒を対象にした避難方法を避難訓練とは別に実施して取り組む。非常時に緊急脱出できるよう避難用滑り台を体験する。	生活支援課 生徒指導	重複生徒を対象にした避難方法体験及び滑り台避難体験が役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	重複生徒を対象にした避難方法体験及び滑り台避難体験が役立ったと判断する職員の割合が87%であった。	重複障害を持つ生徒を担架で避難させたこと、避難場所を正面玄関から運動場へ変更したことが現実に即していると評価された。重複障害を持つ生徒を担架で避難する場合の担架の確保、保護者との連絡調整や打ち合わせ不足で避難日当日まで職員の共通理解が進まなかった。共通理解が進むよう事前準備を行いたい。	B

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
5 業務改善に向けた意識改革	① 業務改善シートで効率的な業務の実践に取り組む。	全教員	各自が業務改善シートを作成する。その結果をもとに、「業務を改善することができた」、「まあまあ改善することができた」と答えた教職員の割合が A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	「業務を改善することができた」、「まあまあ改善することができた」と答えた教職員の割合が81%であった。	改善した事例数ごとの人数は、良く改善していた（5事例以上）は2、まあまあ改善できた（3～4事例）は16、あまり改善できなかった（1～2事例）4、改善できなかったは0であった。 中間評価ではA評価であり、職員が業務の改善に関して意識して取り組んだことがうかがえる。各自の取り組んだ事例を職員全体に知らせ、学校全体の業務の改善をさらに推進していきたい。	A